

長期目標売上高は 100 億

建設通信新聞 2017.9.12 (3)

FCHD M & A、10月に推進本部

長期目標売上高は100億



福島社長

FCHDホールディングスは、2018年6月期の経営計画を明らかにした。福山コンサルタンツを中心とした中核事業である建設コンサルタンツ分野を強化するとともに、研

究開発と人材育成を担うHMBを技術研究所化し、発展的に統合する。M&A（企業の合併・買収）を推し進めると同時に、ICT、産学・ベンチャー連携といった新ビジネス

ネスモデルの構築にも取り組む。将来的な長期目標売上高として、建設コンサルタンツ事業の強化と研究開発で70億円、M&Aで30億円の計100億円を目指す。

目標の達成に向けて、M&Aについては10月から推進本部を立ち上げる。また、研究所を組成し、研究開発を推進するとともに、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ビッグデータといったキーワードのもと、若手社員を中心に新分野への展開を図る。

これらを支える既存事業の強化に向けて、グループ連携を強化するほか、全国、新分野の展開を図っていく。11日に開かれた会社説明会で福島宏治社長は「われわれは全国展開がまだ終わっていない。欠落している地域に展開していく」方針を掲げた。また、道路・交通のコンサルティン

グに強みを持つ一方、「『河川・堤防、海岸、海洋』都市計画・地方計画」が市場か

ら見ると弱い部分であり、分野展開の1つのキーワードと考えている」（福島社長）とした。

18年6月期の海外展開のプロジェクト額は、1億円を予定している。福島社長は「国内の中小企業が海外進出する時に、われわれが持っている物流、交通の知見などで支援し、海外での事業化を実現する業務を担っている」とした。

現時点で対象国はミャンマー、ベトナム、マレーシア、フィリピン、インドネシアの5カ国で実績があり、東南アジアを中心に事業展開を図る。

積極的な投資計画も打ち立てた。7億円の営業キャッシュフローを見込むとともに、外部調達を活用することで10億円の投資予算を準備する。

投資計画の内訳は、新領域投資（M&A）に7億円、生産性向上と研究開発投資にそれぞれ1億5000万円を充てる。

また、新技術として「逆走防止対策装置」の実用化に向けた設置検証の実施を予定しているほか、「交通量観測機器」を開発し、安全性向上や長期間の調査ニーズに対応した機械観測システムをリリースしている。